

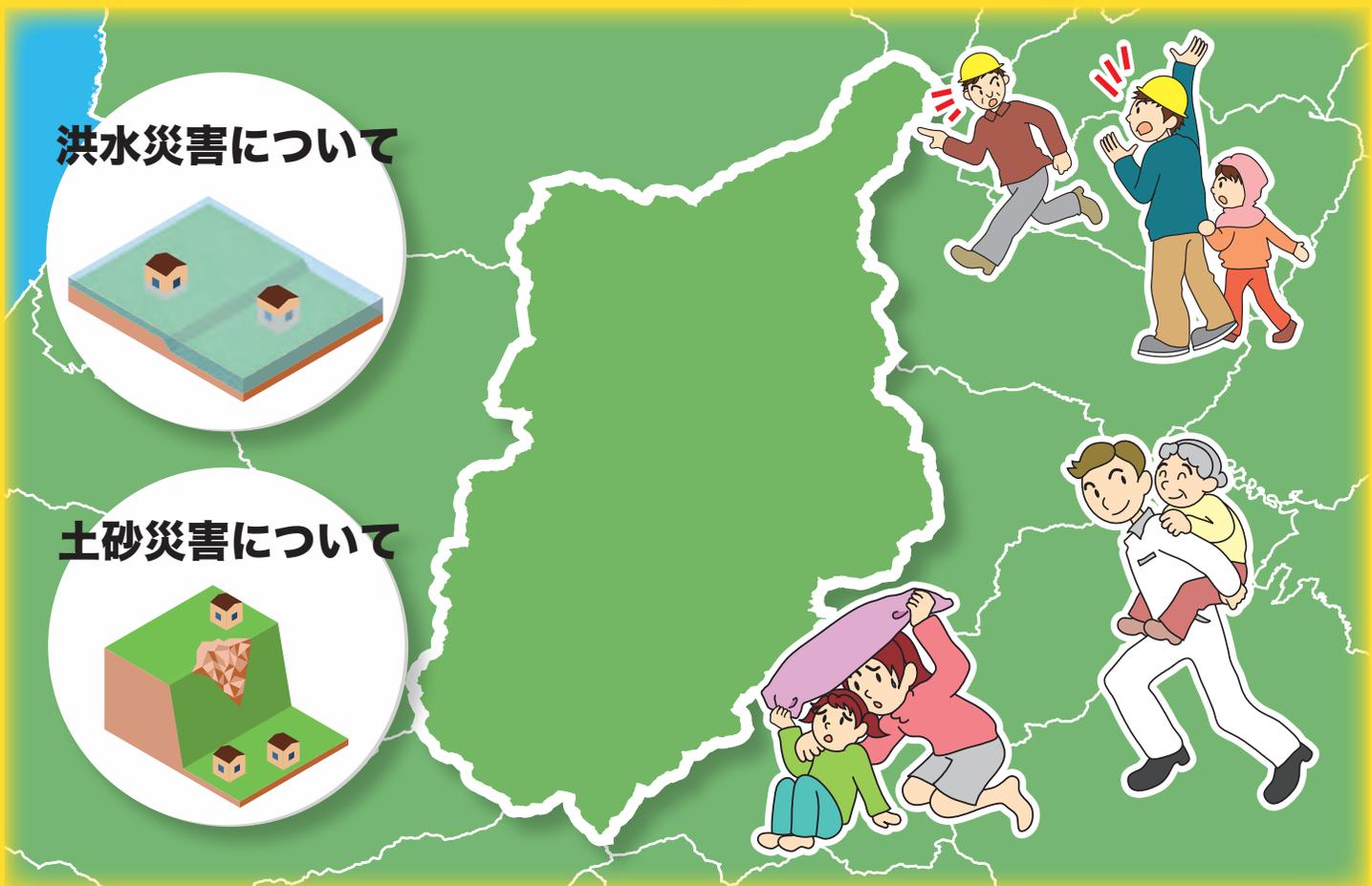


小国町

防災

2021
保存版

マップ



【防災マップとは？】

洪水や土砂災害の危険がある地域と避難所を示したものです。洪水や土砂災害が発生した際に、自宅・職場・学校の周辺や避難所までの経路上に危険がないか、どのようになるのかを事前に確認しておきましょう。なお、防災マップはあくまでも想定図です。雨の降り方や土地の状態によっては、地図に示された区域以外でも洪水や土砂災害が発生することがありますので、十分に注意してください。



防災マップの活用方法

① 地図上で家の位置と家の周りの災害の危険性を確認しましょう

この防災マップには、想定される水害、土砂災害について表示しています。自分が住んでいる場所に、どのような水害の危険、土砂災害の危険があるかを確認しましょう。ただし雨の降り方や土地の状態によっては、地図に示された区域以外でも洪水や土砂災害が発生することがありますので、十分に注意してください。

② 指定避難所を確認しましょう

本書13ページの避難所等一覧で、自分の住んでいる地区で指定されている指定避難所を確認しましょう。そして地図上でその指定避難所がどこにあるのか、場所の確認をしましょう。

③ 避難経路を考えてみましょう

防災マップで自分が住んでいる場所から指定避難所まで、どの道を通れば良いか、避難経路を地図上で確認しましょう。地図上での確認が済んだら、実際に指定避難所まで歩いてみましょう。安全で歩きやすい道を選び、避難所までの経路を確認して、所要時間を計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大人数での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。

④ 家族や周辺住民と情報を共有しましょう

防災マップは家族や地域の方と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと避難先を伝え、どこの施設に避難しているのか分かるようにしておきましょう。安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。

目次

- 防災マップの活用方法・目次..... P.1
- 5段階警戒レベルについて..... P.2
- 避難行動判定フロー..... P.3
- 避難行動ガイド..... P.4
- 風水害対策について..... P.5
- 洪水ハザード情報について..... P.6
- 土砂ハザード情報について..... P.7
- 地震対策について..... P.8
- わが家の地震対策&チェック..... P.9
- 非常時持出品の準備&チェック..... P.10
- わが家の「防災・緊急情報」メモ..... P.11
- 関係機関一覧..... P.12
- 避難所等一覧..... P.13
- 小国町全体図..... P.14
- 詳細図（中心部拡大図）..... P.15～P.16
- 詳細図（No.1～No.11）..... P.17～P.38
- 防災情報の入手方法..... 巻末

問い合わせ

発行：小国町役場 町民税務課 [問い合わせ：TEL 0238-62-2111(代表)]
 制作・著作：株式会社ゼンリン

5段階警戒レベルについて

住民の皆さまが、「自らの命は自ら守る」という意識のもと、自主的な避難を行うために、避難情報が5段階の警戒レベルにより提供されます。日頃からいざという時に備えて、災害時のとるべき行動の確認をお願いします。



それぞれの警戒レベルに相当する情報を、**早めの避難行動の判断**に役立ててください。
町からの**避難指示等の発令に留意**するとともに、避難指示等が発令されていなくとも**自ら避難の判断**をしてください。
警戒レベル5の状況では災害が発生して避難できなくなることから、**警戒レベル3や4の段階で避難することが重要**です。

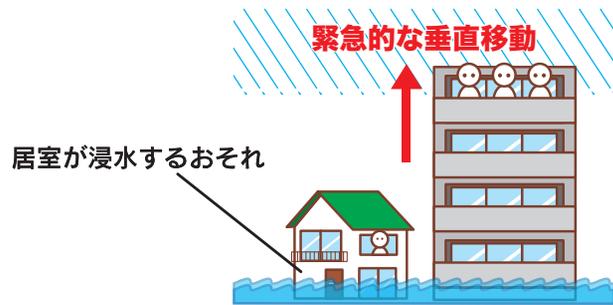
水害・土砂災害について、避難情報を5段階に整理しました。

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1
〜~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難!> ~~~~~~			
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨注意報・洪水注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。
 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5（緊急安全確保）の発令で 住民がとるべき行動のイメージ

洪水 浸水しないよう少しでも高い場所へ移動 など



! 土砂災害は立退き避難が原則

土砂災害 土砂災害の危険がある場所から少しでも離れた場所へ移動 など



※崖から離れた部屋にも土砂が流れ込むおそれ

警戒レベル4（避難指示）の発令で 住民がとるべき行動のイメージ

洪水 浸水しない高い場所へ移動 など



※自宅で安全確保できると自ら判断する場合は垂直移動・待避も選択可

土砂災害 土砂災害の危険がない場所へ移動



避難行動判定フロー

平時に確認

「自らの命は自ら守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？ **必ず取組みましょう**

防災マップ※1で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※1 防災マップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、町からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として※2、自宅の外に避難が必要です。

例外

※2 浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。
※2 土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう（日頃から相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル3が出たら、町が指定している**指定避難所**に避難しましょう

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう（日頃から相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル4が出たら、町が指定している**指定避難所**に避難しましょう

避難行動ガイド

町では、住民の皆さまの生命に危険が及ぶと判断した場合、「高齢者等避難」「避難指示」を発令し、住民の皆さまに避難を促します。避難指示等を発令するときは、様々な状況を総合的に判断して発令します。

避難とは・・・

避難は、災害から命を守るための行動であり、避難行動には次のような方法があります。

屋外が安全で移動できる状態のとき

指定避難所・
指定緊急避難
場所への移動。

警戒区域等内の自宅などから
安全な場所への移動。
(親戚や友人の家など)

近隣の強固で
高い建物など
への移動。

屋外が危険な状態のとき

建物内の安全な場所での待避。
(家屋内での垂直移動)

やむを得ず、家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として、洪水対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害対策では、斜面と反対方向の高い階への移動が有効です。

避難指示等の種類と、住民の皆さまの対応

避難指示等は、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難指示」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「**自主避難**」をお願いします。

区分	住民の皆さまの対応
避難指示	<ul style="list-style-type: none"> 避難がまだの人は、直ちに避難をする。 避難をすることが、かえって危険と判断される場合は、屋内で安全を確保する。
高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> 気象情報に注意を払い、避難の必要について考え、避難が必要と判断した場合は自主避難をする。 要配慮者(障がい者や高齢者で避難行動が困難な人と、その支援者)は、この段階で避難をする。

※「**自主避難**」とは・・・避難指示等を待たず、自主的に避難施設、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出来るだけ必要な食料、飲み物、日用品などを持参するようにしてください。

避難行動の留意点

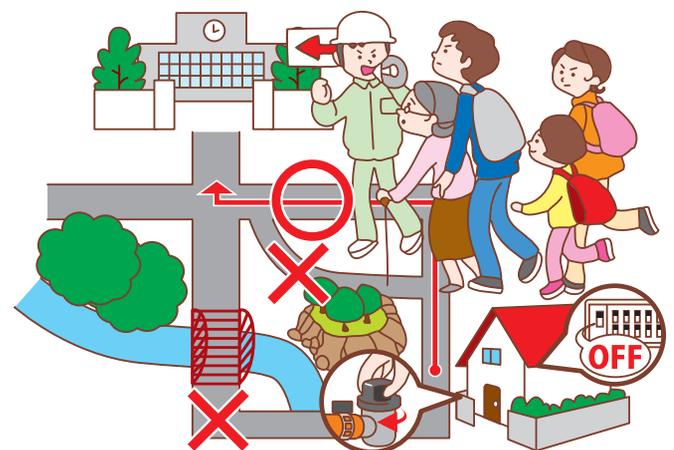
！ 避難するときの服装

- ヘルメット、帽子等をかぶる。
- 非常持ち出し袋はリュックサックに入れて背負う。
(両手が使えるように)
- 長袖・長ズボンを着用する。
- 軍手や手袋をはめる。
- 靴は底の厚い、履き慣れたものを着用する。
- やむをえず夜間に避難の際は懐中電灯を持つ。



！ 避難時のポイント

- 避難する前にもう一度火元を確認する。
- ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす。
- 持ち出す荷物は最小限にする。
- 近所の人に声をかけ、複数人で行動する。
- 避難する時は、狭い道やブロック塀、自動販売機のそば、川べり、ガラスや看板の多い場所を避ける。
- 決められた最寄りの避難場所へ徒歩で移動する。
- 子ども、障がい者、高齢者など避難行動要支援者がはぐれないよう配慮をしながら避難する。



風水害対策について

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨注意報・警報の発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合。

大雨警報

大雨によって**重大な災害**が起こるおそれがあると予測される場合。

大雨特別警報

数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、**重大な災害が起こるおそれ**が著しく大きい状況と予想される場合。

雨の強さと降り方

(1時間雨量：mm)

10～20の雨



地面一面に水たまりができ、話声が聞き取りにくくなります。

20～30の雨



土砂降りの雨のときは、傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。テレビやラジオなどで今後の様子を注意し、長引きそうなら避難の心構えをしましょう。

30～50の雨



バケツをひっくり返したような激しい雨のときは、山崩れやがけ崩れが起こりやすくなります。避難の準備をしましょう。

50～80の雨



滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。中小の河川は氾濫し、水害発生の可能性が高まります。

80以上の雨



息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

風の強さと吹き方

(平均風速：m / 秒)

10以上～15未満



風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。

15以上～20未満



風に向かって歩けない。転倒する人もいる。

20以上～25未満



しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。

25以上～



立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

竜巻から身を守る

竜巻とはこのような現象です

- 竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻きです。
- ろうと状や柱状の雲を伴っています。
- 台風、寒冷前線、低気圧などに伴って発生します。
- 短時間で狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらします。被害は、長さ数km、幅数十～数百mの狭い範囲に集中します。
- 移動スピードが非常に速い場合があります。
過去に発生した竜巻の中には、時速約90km(秒速25m)で移動したものもあります。

竜巻の発生時に、よく現れる特徴

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。



速やかに情報を把握するために

- テレビやラジオの気象情報や町からの防災放送などで提供される防災情報に注意してください!

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- テレビ・ラジオなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、注意しましょう!



洪水ハザード情報について

平成27年の水防法改正に基づき、横川・荒川流域における浸水想定区域が見直され公表されました。以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1 氾濫の種類

- 雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、排水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。



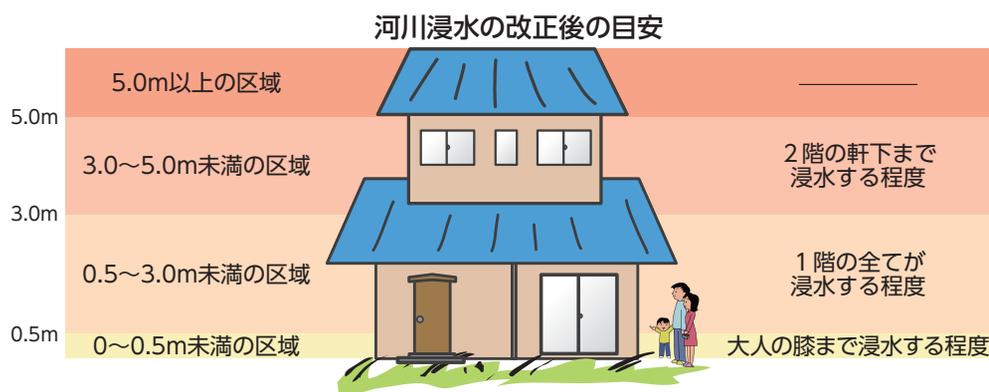
内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



2 説明(外水氾濫)

- この「マップ」で使用しているハザード情報は、横川・荒川が、大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。



3 洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を注意する予報。

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害がおこる恐れがある場合、その旨を警告する予報。

指定河川洪水予報など

- 横川・荒川は水位周知河川に指定されており、避難判断水位に達したとき県が「避難判断水位到達情報」を発表します。

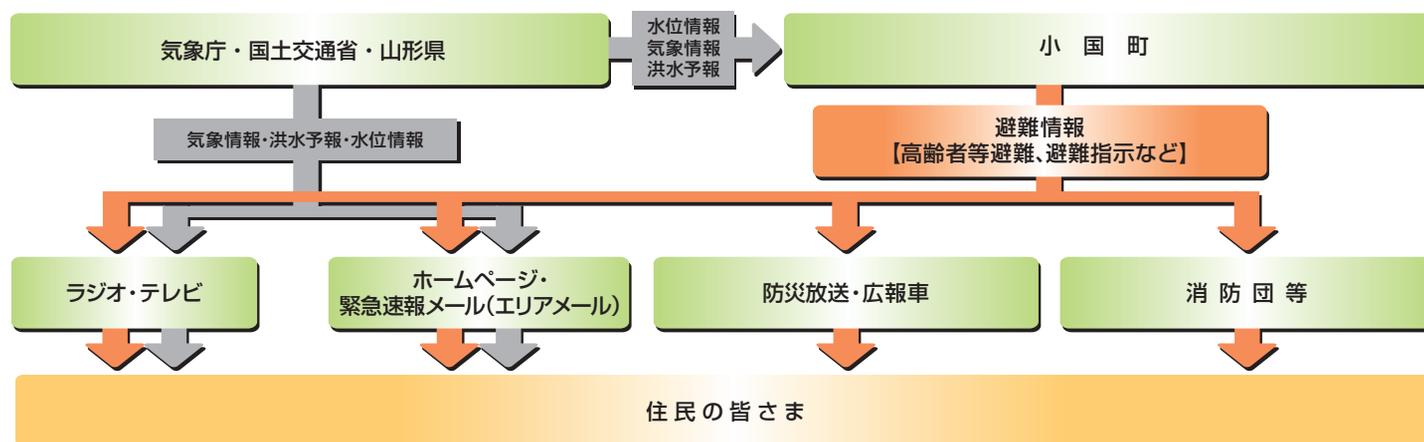
水位にともなう判断基準



※基準水位や現況水位は、「山形県河川・砂防情報」で確認できます。
<http://www.kasen.pref.yamagata.jp/>

4 洪水情報の伝達ルート(土砂災害情報も同じ)

- 気象の異常に対して、下図の伝達ルートで住民の皆さまへお知らせします。



避難情報の伝達ルートがオレンジ色になります。情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。

土砂ハザード情報について

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難してください。日頃から危険箇所、指定避難所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害の種類

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。

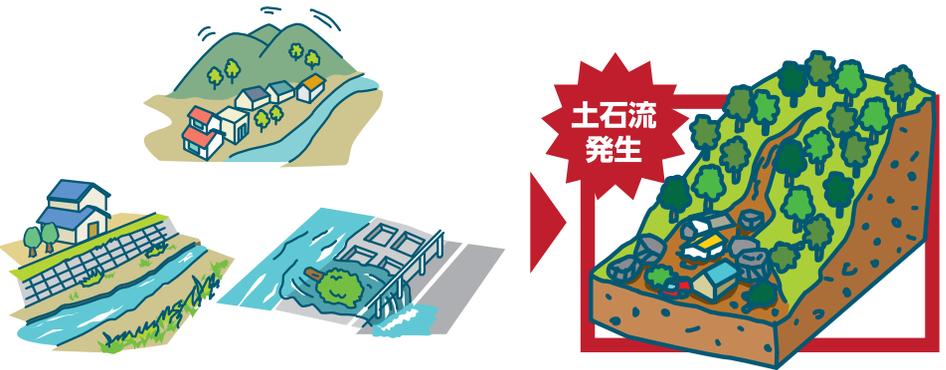
- 小石がパラパラ落ちる ●ひび割れが入る
- 木が傾いたり倒れる ●湧き水が止まる(または吹き出す) など



土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

- 異常な山鳴り・地鳴りがする ●川の水位が急に下がる
- 急に水が濁る ●流木が混じる など



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

- 斜面・道路にひび割れ、段差ができる
- 井戸・池・川などの水が濁る など



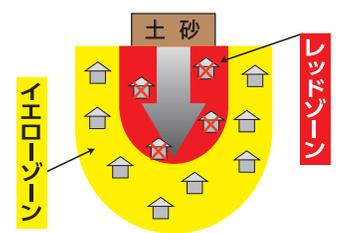
※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといえるものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害の警戒区域

土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン) 建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域(イエローゾーン) 土砂災害のおそれがある区域



避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、土砂災害の危険がある場所から少しでも離れた場所へ避難して下さい。

！ 土砂災害は立退き避難が原則

- 1 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。
- 2 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の堅牢な建物の高層階へ避難する。



- 3 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。

地震対策について 地震発生!そんなときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

3分

5分

10分
数時間
3日

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な座布団などで頭を保護)
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火の確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根・ブロック塀・自動販売機等に注意



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう
- 要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか
- ケガ人はいないか

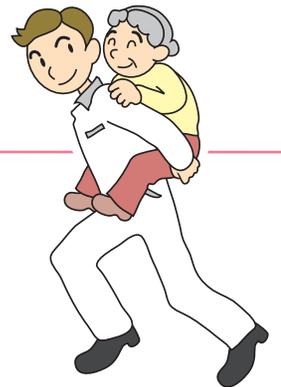
出火防止
初期消火

- 初期消火 ●消火器を使う ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ●余震に注意



防災放送などで正しい情報を

- 防災放送や登録制メール等により伝達される町からの情報に注意する。 ●防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する ●災害用伝言ダイヤルの活用



協力して消火活動、救出・救護活動を

- 大声で知らせる ●救出・救護を
- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間から1週間程度の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ●無理な救助、消火活動は行わず、自身の安全を第一に考える
- 助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない

屋内にいた場合

家中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

店舗

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや陳列棚などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示に従い、落ち着いた行動をとる。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオ等で情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

わが家の地震対策&チェック

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

□ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



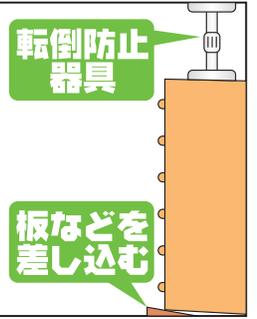
□ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



□ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



□ 子どもやお年寄りのいる部屋、寝室には家具を置かない

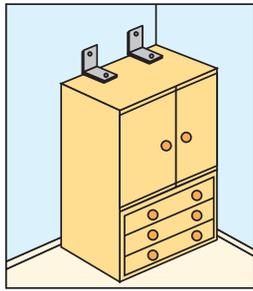
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

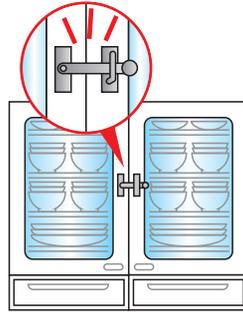
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



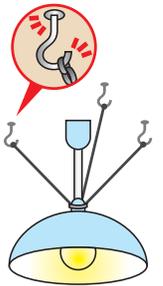
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



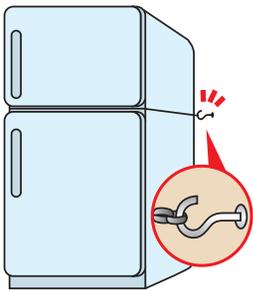
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



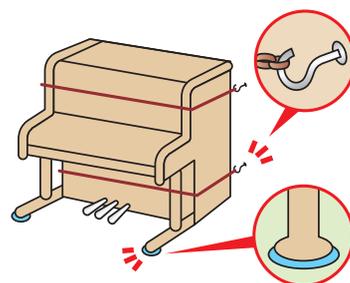
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

□ 屋根

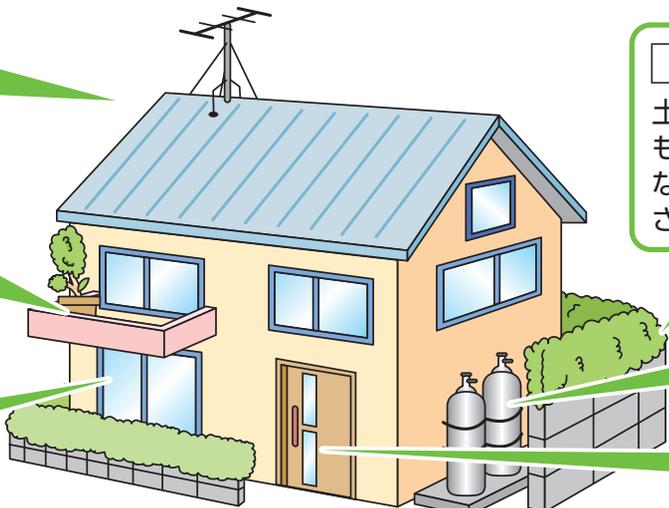
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

□ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

□ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



□ ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

□ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

□ 非常口の確保

非常時持出品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検をしておきましょう。

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

携帯ラジオ



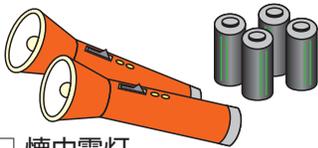
- ラジオ
- 電池(多めに用意)

非常食品等



- 非常用食品
- ミネラルウォーター

懐中電灯



- 懐中電灯
(出来れば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

救急医療品



- 常備薬
- きず薬
- かぜぐすり
- 鎮痛剤
- ばんそうこう
- 包帯
- 胃腸薬
- お薬手帳

衛生用品



- マスク
- 消毒液(石けん等)
- 体温計
- 使い捨てのビニール手袋
- ウェットティッシュ、ティッシュ
- ペーパータオル

貴重品



- 現金
- 印鑑
- 健康保険証
- 預貯金通帳
- 免許証
- 権利証書

乳幼児のいるご家庭



- 液体ミルク
(又は粉ミルク+軟水や蒸留水)
- 離乳食
- 哺乳瓶
- 紙おむつ
- おしりふき
- おもちゃ
(お気に入りのもの)

その他



- 衣類
(下着・上着など)
- 生理用品
- 缶切り
- 紙皿
- 水筒
- ヘルメット
- 防災マップ(本書)
- タオル
- 紙おむつ
- 栓抜き
- 紙コップ
- カップ
- ライター
- ラップフィルム
(止血や食器にかぶせて使う)

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの3日間~1週間を生活できるようにチェック☑しましょう。

飲料水



- 飲料水としてペットボトルやミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)又は貯水した防災タンクなど

非常食品



- お米(アルファ化米など)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水
(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など

~ お手軽防災のススメ ~

ローリングストックはじめよう!

ローリングストックとは、普段使う食料や日用品を、もしもの場合に備えて多めに買って置き、古くなったものから日々の生活の中で使い、使った分を買い足すことで常に新しいものを保存しておくという、新しい災害用備蓄の考え方です。

「災害に備えなきゃいけないのはわかっているけど、何をすれば」とお考えのあなた。

まずは **ローリングストック** で、簡単・手軽に防災、はじめてみませんか。

出典：山形県環境エネルギー部【防災危機管理課】ローリングストックをはじめよう!
(https://www.pref.yamagata.jp/documents/1718/yamagata_rollingstock.pdf)を加工して作成しています。

誰でも簡単! 手軽に3ステップ!
これがローリングストックだ!



わが家の「防災・緊急情報」メモ

非常時・緊急時に家族等との連絡や救助・医療支援が的確かつ円滑に行われるよう、わが家の情報を記入しておきましょう。

氏名		電話	
住所			

指定避難所	
家族が離ればなれになった時の指定避難所	
地域の自主防災組織	

家族構成 連絡先	氏名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住所	メモ	

家族の 緊急情報 ・ 救急メモ	氏名	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関	

【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

緊急時 連絡先	氏名	間柄	電話	住所	メモ	

自主防災組織の活動で地域の防災力向上を！

あなた自身やあなたの地域を守るために、自主防災組織に積極的に参加して助け合う体制を築きましょう。自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という連帯意識のもと、地域住民が力を合わせ、自主的に防災・減災活動を行う組織です。(地域で新たに自主防災組織を作るときは、町に相談してください。)

自主防災組織の取り組み

- 地域の防災訓練や危険箇所のチェック等に積極的に参加し、防災の知識やAED・消火器などの使い方を身につけましょう。
- 日頃からご近所の方々とのコミュニケーションを深めましょう。
- 災害時に備え、日頃から支援が必要な方を知っておきましょう。
- お年寄りや体の不自由な方などの避難に協力しましょう。
- 地域で初期消火や避難誘導、救出・援護活動ができるよう、必要な資機材を整備しておきましょう。
- 災害時には、避難誘導や救護活動、避難所運営に協力しましょう。



関係機関一覧

公共機関

(市外局番：0238)

名称	所在地	電話番号	備考
小国町役場	小国小坂町2-70	62-2111	
消防署小国分署	岩井沢523-1	62-2154	
小国警察署	小国小坂町1-49	62-0110	
小国警察署北部駐在所	舟渡1282-2	62-2417	
小国警察署南部駐在所	玉川251-3	64-2306	
小国警察署沼沢駐在所	沼沢502-3	63-2022	
横川ダム管理支所	綱木箱口736	65-2363	
飯豊山系砂防事務所	小国小坂町3-48	62-2566	
置賜森林管理署	岩井沢581-45	62-2246	
置賜総合支庁小国分所	小国小坂町字光岳寺前1-426-50	62-2153	

医療機関

名称	所在地	電話番号	備考
小国町立病院	あけぼの1-1	61-1111	
田中クリニック	小国町170-2	61-0203	

ライフライン

名称	所在地	電話番号	備考
東北電力ネットワークコールセンター		0120-175-366	停電等のお問い合わせ
東日本電信電話コールセンター		0120-444-113	電話故障等のお問い合わせ
災害用伝言ダイヤル		171	ご利用方法は下記を参照ください

災害用伝言ダイヤルの使い方

災害用伝言ダイヤルとは？

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。NTT「災害用伝言板(web171)」との連携により、伝言内容を相互に確認することができます。

伝言の録音	171-1 -▲▲▲▲▲-■-◆◆◆◆◆ (被災地の方の電話番号)	伝言保存期間	運用期間終了まで
伝言の再生	171-2 -▲▲▲▲▲-■-◆◆◆◆◆ (被災地の方の電話番号)	伝言蓄積数	1電話番号あたり1～20件 (提供時にお知らせいたします)
伝言内容	1伝言あたり30秒以内	利用可能電話	固定電話、IP電話(050含む)、 携帯電話、PHS

避難所等一覧

各避難所の開設は、災害の発生場所・種類・規模によって異なりますので、防災放送・ホームページ等により周知します。

【指定避難所一覧】

NO	名称	所在地	指定緊急避難 避難所	洪水	土砂	地震	掲載詳細図
1	旧北部小中学校体育館	太鼓沢 39	○	○	○	○	No.2
2	旧沖庭小学校体育館	若山 225-1	○	○	○	○	No.3
3	小国中学校体育館	岩井沢 719	○	○	○	○	拡大図・No.4・No.5
4	町民総合体育館	岩井沢 683-1	○	○	○	○	拡大図・No.5
5	小国小学校アリーナ（体育館）	岩井沢 673	○	○	○	○	拡大図・No.5
6	旧小玉川小中学校	小玉川 511	○	○	○	○	No.6
7	叶水小中学校体育館	叶水 301	○	○	○		No.9

【指定緊急避難場所一覧】

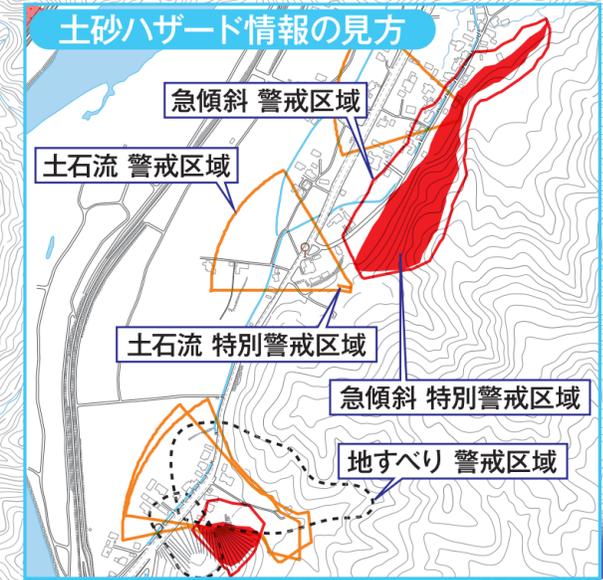
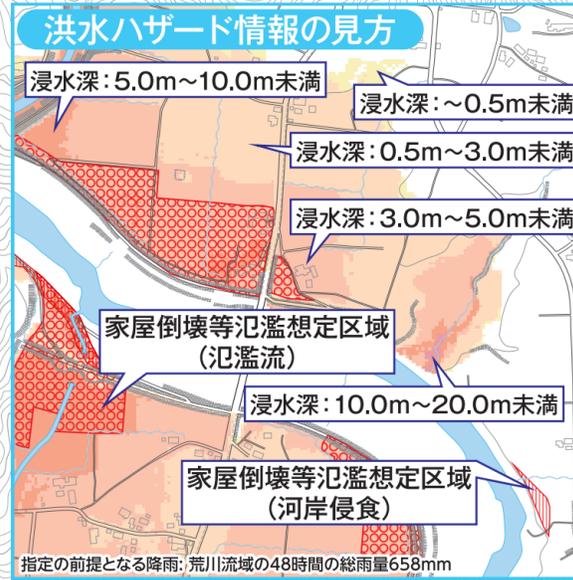
NO	名称	所在地	洪水	土砂	地震	掲載詳細図
1	樋倉農作業準備休憩所	五味沢 318-2			○	No.2
2	白い森交流センターりふれ	五味沢 513	○	○	○	No.2
3	石滝公民館	石滝 287-2	○	○		No.3
4	あさひ保育園	長沢 341-1			○	No.2
5	今市活性化センター	今市 789			○	No.3
6	舟渡活性化センター	舟渡 1607			○	No.3
7	金目そばの館	金目 264-1	○	○	○	No.3（カット図）
8	若山自治会館	若山 324-1	○	○	○	No.3
9	宮の森自治会館	大宮 235-1	○	○	○	No.4
10	宮の台自治会館	宮の台 25	○	○	○	No.4
11	道の駅白い森おぐに	小国小坂町 616-1	○	○	○	No.4
12	幸和会館	幸町 7-7	○	○	○	拡大図・No.4
13	田沢頭集落センター	田沢頭 121-1	○	○		No.4
14	北公民館	北 80-37	○	○	○	拡大図・No.4
15	クアーズテック(株)体育館	小国町 378	○	○		拡大図・No.4
16	多目的屋内運動場あいべ	栄町 106	○	○	○	拡大図・No.4
17	小国町役場	小国小坂町 2-70	○	○	○	拡大図・No.4
18	白い森ショッピングセンターアスモ	小国町 163	○	○	○	拡大図・No.4
19	小国高等学校体育館	岩井沢 621	○	○	○	拡大図・No.4・No.5・No.8
20	スポーツ交流センターアスネット	小国町 509	○	○	○	拡大図・No.4
21	健康管理センター	あけぼの 1-1	○	○	○	拡大図・No.4・No.8
22	東原公民館	東原 14-3	○	○	○	拡大図・No.8
23	平和会館	町原 342-2	○	○	○	拡大図・No.8
24	種沢公民館	種沢 534-2	○	○	○	No.8
25	片貝公民館	片貝 197	○	○	○	No.5
26	長者原公民館	小玉川 466	○	○	○	No.7
27	小玉川公民館	小玉川 18	○	○	○	No.7
28	きてくろ館	綱木箱口 736	○	○	○	No.8
29	水源の郷交流館	叶水 1474-1	○	○	○	No.9
30	叶水保育園	叶水 1446	○	○	○	No.9
31	下大石沢公民館	大石沢 614	○	○	○	No.9



0m 1:15,000 450m 900m

凡例	
土砂災害警戒区域	
急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	
河川 浸水深	
10.0m~20.0m未満	ため池 浸水深
5.0m~10.0m未満	5.0m以上
3.0m~5.0m未満	2.0m~5.0m未満
0.5m~3.0m未満	1.0m~2.0m未満
~0.5m未満	0.5m~1.0m未満
	~0.5m未満
家屋倒壊等氾濫想定区域	
氾濫流	河岸侵食
避難所等の表記	
1 ~ 7 指定避難所	① ~ ③ 指定緊急避難場所

岩崩



新潟県 村上市

新潟県 村上市

大字五味沢

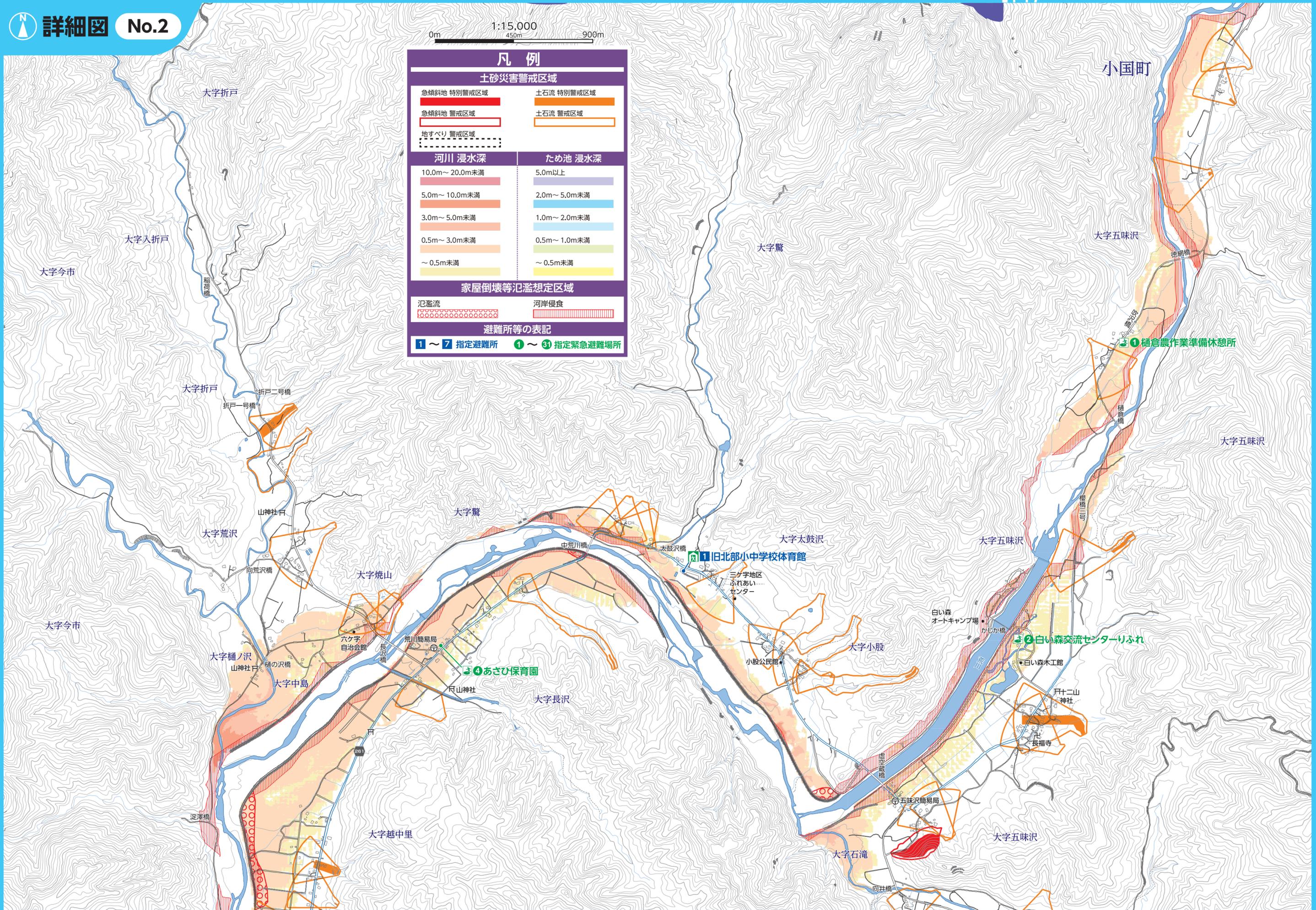
小国町



0m 1:15,000 450m 900m

↑P17

凡例	
土砂災害警戒区域	
急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	
河川 浸水深	
10.0m～20.0m未満	5.0m以上
5.0m～10.0m未満	2.0m～5.0m未満
3.0m～5.0m未満	1.0m～2.0m未満
0.5m～3.0m未満	0.5m～1.0m未満
～0.5m未満	～0.5m未満
ため池 浸水深	
10.0m～20.0m未満	5.0m以上
5.0m～10.0m未満	2.0m～5.0m未満
3.0m～5.0m未満	1.0m～2.0m未満
0.5m～3.0m未満	0.5m～1.0m未満
～0.5m未満	～0.5m未満
家屋倒壊等氾濫想定区域	
氾濫流	河岸侵食
避難所等の表記	
1～7 指定避難所	①～③ 指定緊急避難場所





↑P19

↑P20

0m 1:15,000 450m 900m

凡例

土砂災害警戒区域

急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	

河川 浸水深

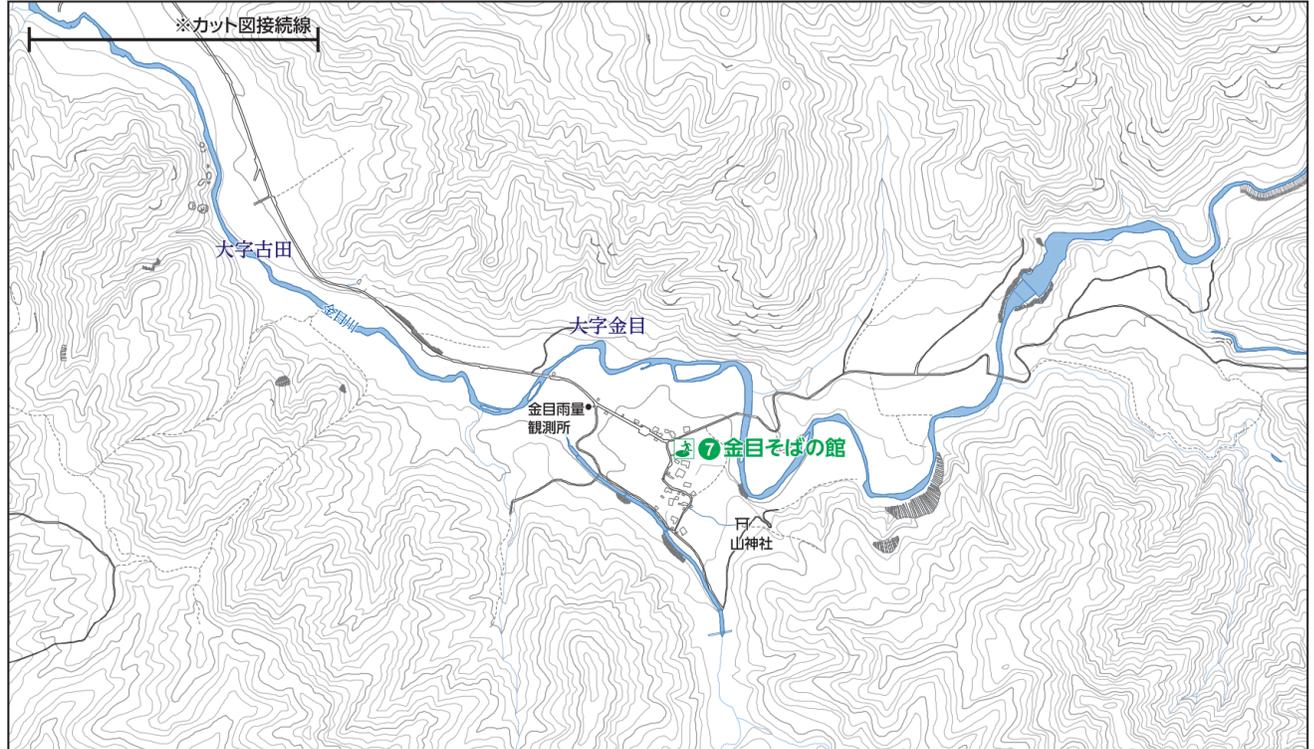
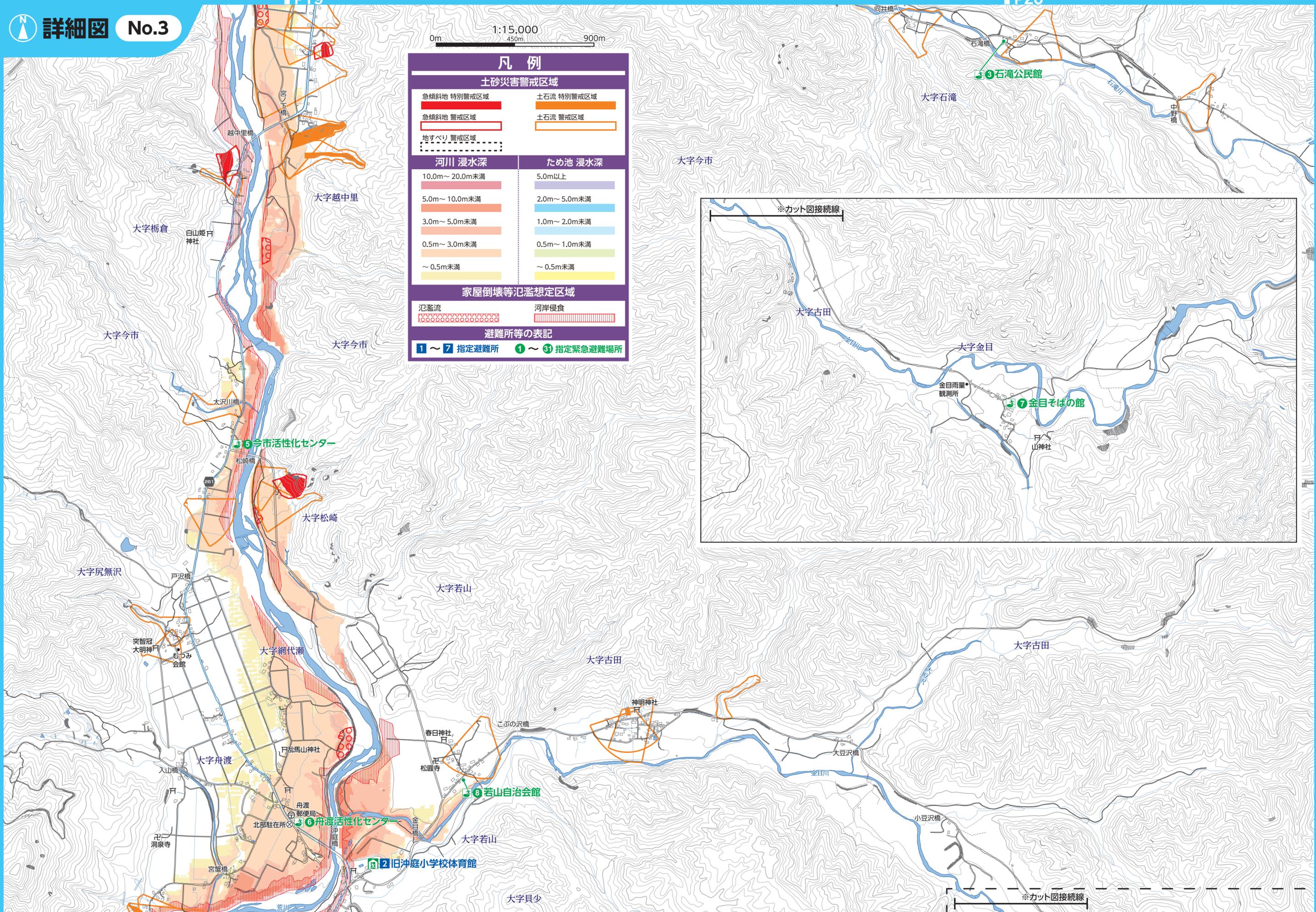
10.0m~20.0m未満	ため池 浸水深
5.0m~10.0m未満	5.0m以上
3.0m~5.0m未満	2.0m~5.0m未満
0.5m~3.0m未満	1.0m~2.0m未満
~0.5m未満	0.5m~1.0m未満
	~0.5m未満

家屋倒壊等氾濫想定区域

氾濫流	河岸侵食
-----	------

避難所等の表記

1 ~ 7 指定避難所	① ~ ③ 指定緊急避難場所
-------------	----------------

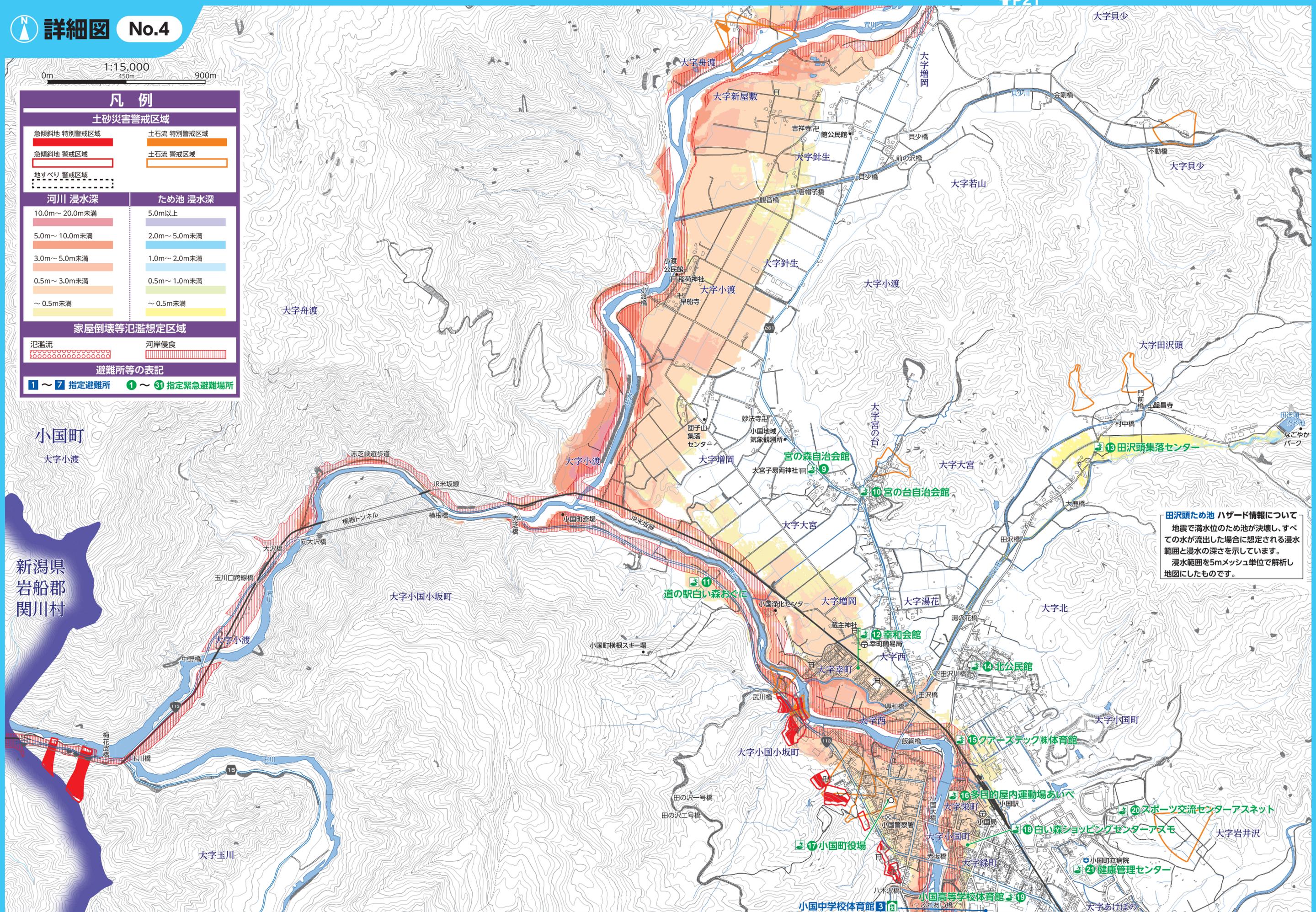


↓P24



0m 1:15,000 450m 900m

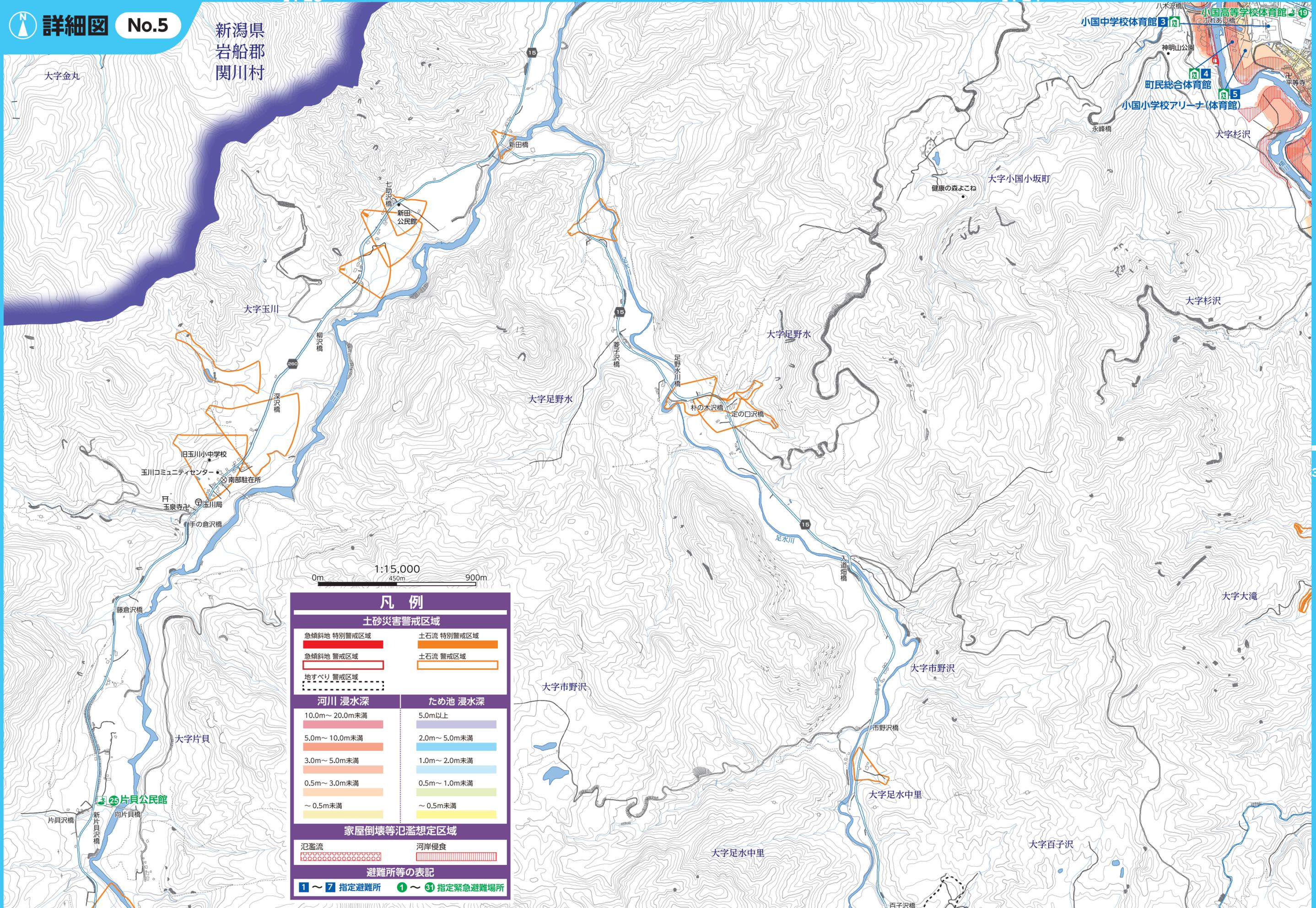
凡例	
土砂災害警戒区域	
急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	
河川 浸水深	
10.0m~20.0m未満	ため池 浸水深
5.0m~10.0m未満	5.0m以上
3.0m~5.0m未満	2.0m~5.0m未満
0.5m~3.0m未満	1.0m~2.0m未満
~0.5m未満	0.5m~1.0m未満
	~0.5m未満
家屋倒壊等氾濫想定区域	
氾濫流	河岸侵食
避難所等の表記	
1~7 指定避難所	①~⑳ 指定緊急避難場所



小国町
大字小渡

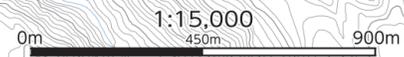
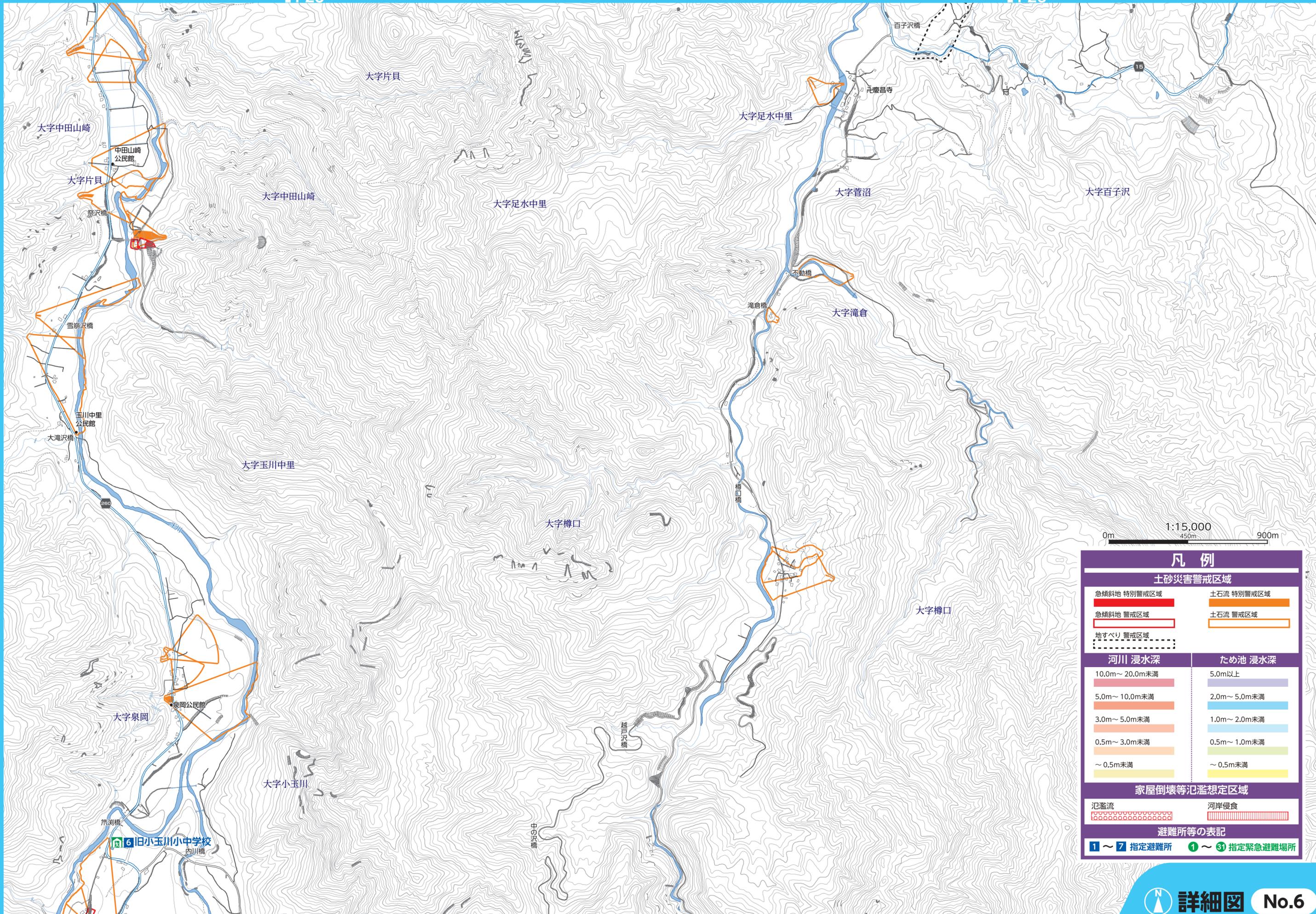
新潟県
岩船郡
関川村

田沢頭ため池 ハザード情報について
地震で満水位のため池が決壊し、すべての水が流出した場合に想定される浸水範囲と浸水の深さを示しています。浸水範囲を5mメッシュ単位で解析し地図にしたものです。

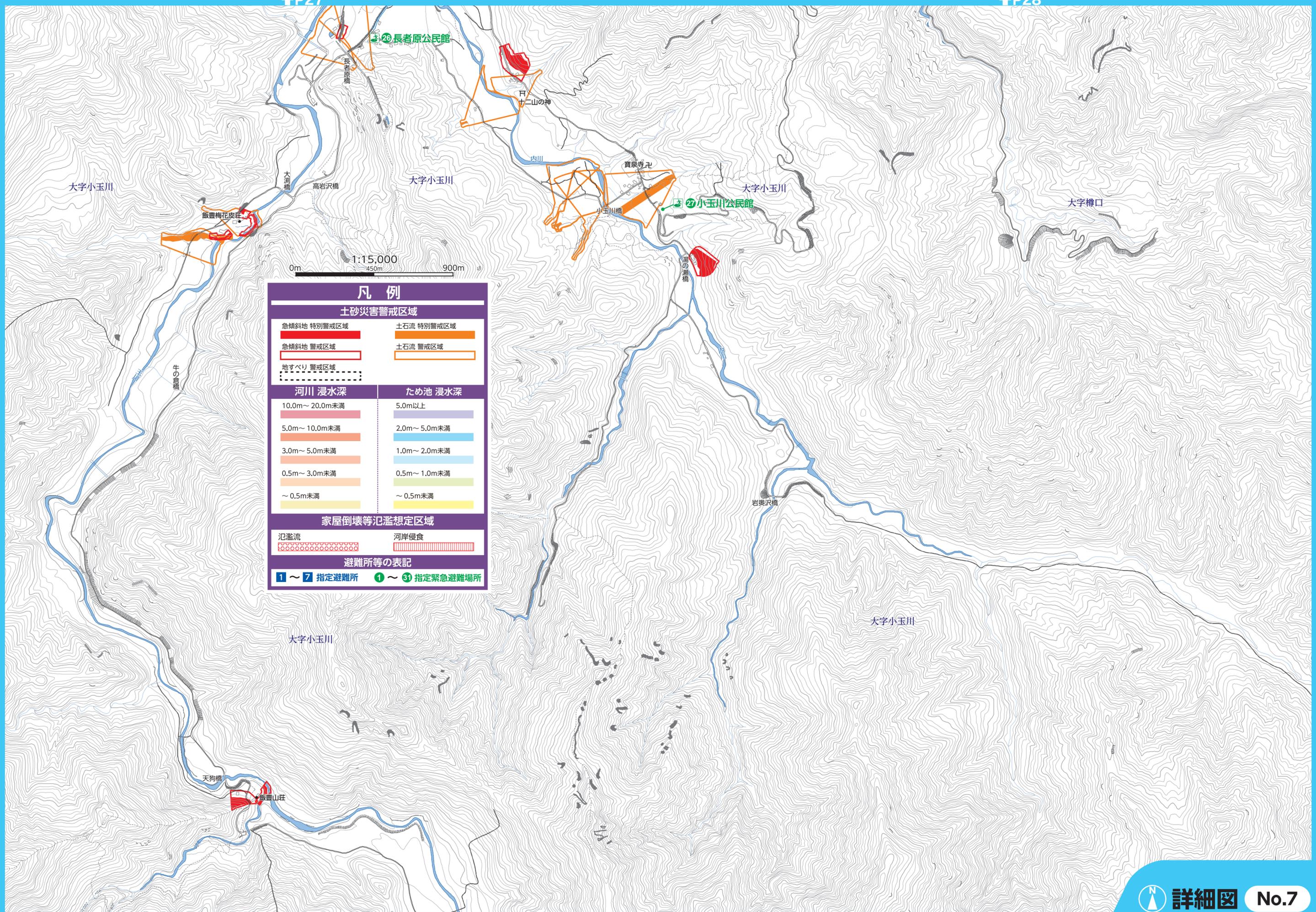


凡例	
土砂災害警戒区域	
急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	
河川 浸水深	
10.0m～20.0m未満	
5.0m～10.0m未満	
3.0m～5.0m未満	
0.5m～3.0m未満	
～0.5m未満	
ため池 浸水深	
5.0m以上	
2.0m～5.0m未満	
1.0m～2.0m未満	
0.5m～1.0m未満	
～0.5m未満	
家屋倒壊等氾濫想定区域	
氾濫流	河岸侵食
避難所等の表記	
1～7 指定避難所	①～③① 指定緊急避難場所

0m 1:15,000 450m 900m



凡例	
土砂災害警戒区域	
急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	
河川 浸水深	
10.0m ~ 20.0m未満	5.0m以上
5.0m ~ 10.0m未満	2.0m ~ 5.0m未満
3.0m ~ 5.0m未満	1.0m ~ 2.0m未満
0.5m ~ 3.0m未満	0.5m ~ 1.0m未満
~ 0.5m未満	~ 0.5m未満
家屋倒壊等氾濫想定区域	
氾濫流	河岸侵食
避難所等の表記	
1 ~ 7 指定避難所	1 ~ 31 指定緊急避難場所



凡例

土砂災害警戒区域

急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	

河川 浸水深

10.0m ~ 20.0m未満
5.0m ~ 10.0m未満
3.0m ~ 5.0m未満
0.5m ~ 3.0m未満
~ 0.5m未満

ため池 浸水深

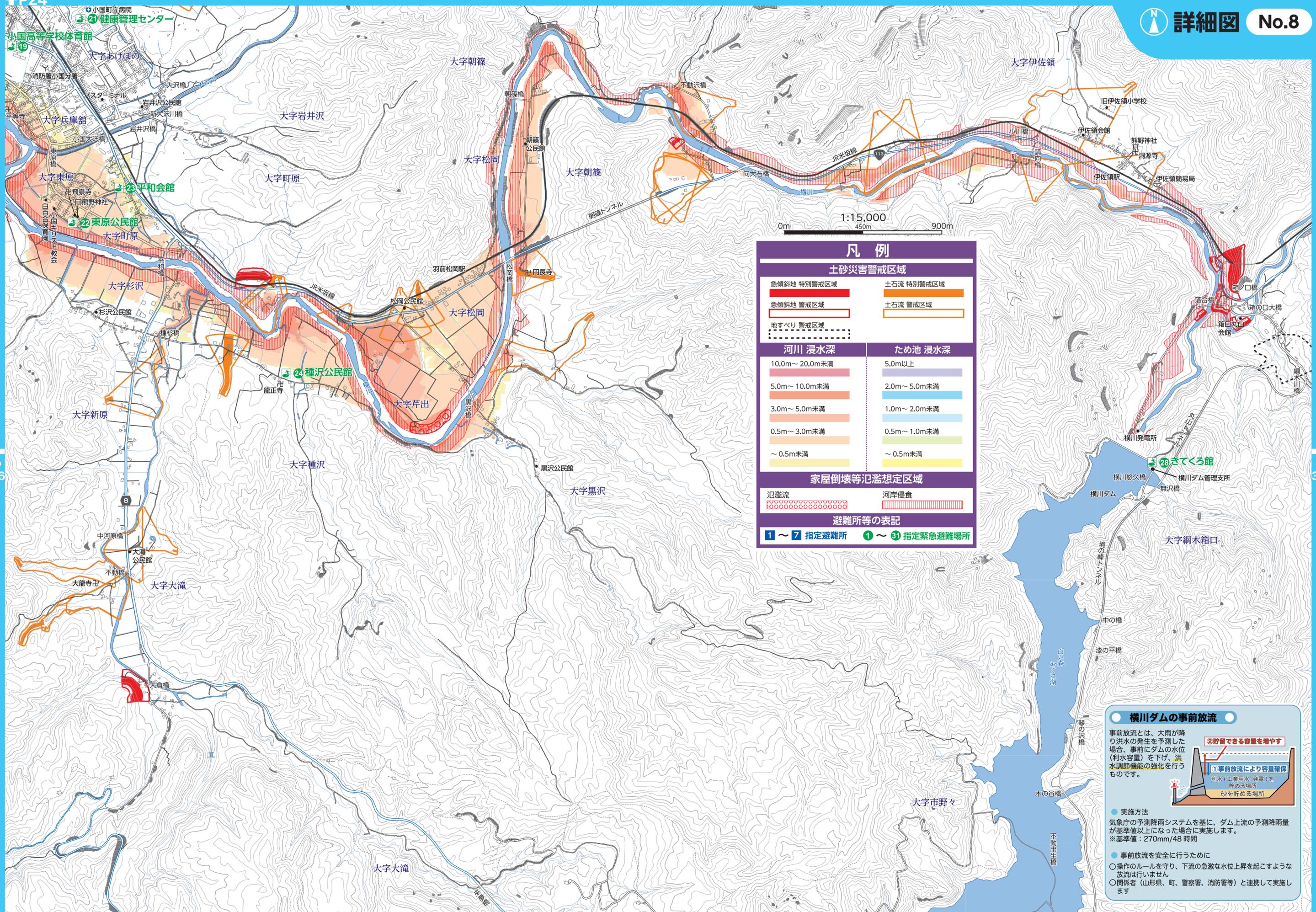
5.0m以上
2.0m ~ 5.0m未満
1.0m ~ 2.0m未満
0.5m ~ 1.0m未満
~ 0.5m未満

家屋倒壊等氾濫想定区域

氾濫流	河岸侵食
-----	------

避難所等の表記

1 ~ 7 指定避難所 ① ~ ③1 指定緊急避難場所



凡例

土砂災害警戒区域

急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	

河川 浸水深	ため池 浸水深
10.0m～20.0m未満	5.0m以上
5.0m～10.0m未満	2.0m～5.0m未満
3.0m～5.0m未満	1.0m～2.0m未満
0.5m～3.0m未満	0.5m～1.0m未満
～0.5m未満	～0.5m未満

家屋倒壊等氾濫想定区域

氾濫流	河岸侵食
-----	------

避難所等の表記

1～7 指定避難所 ①～③ 指定緊急避難場所

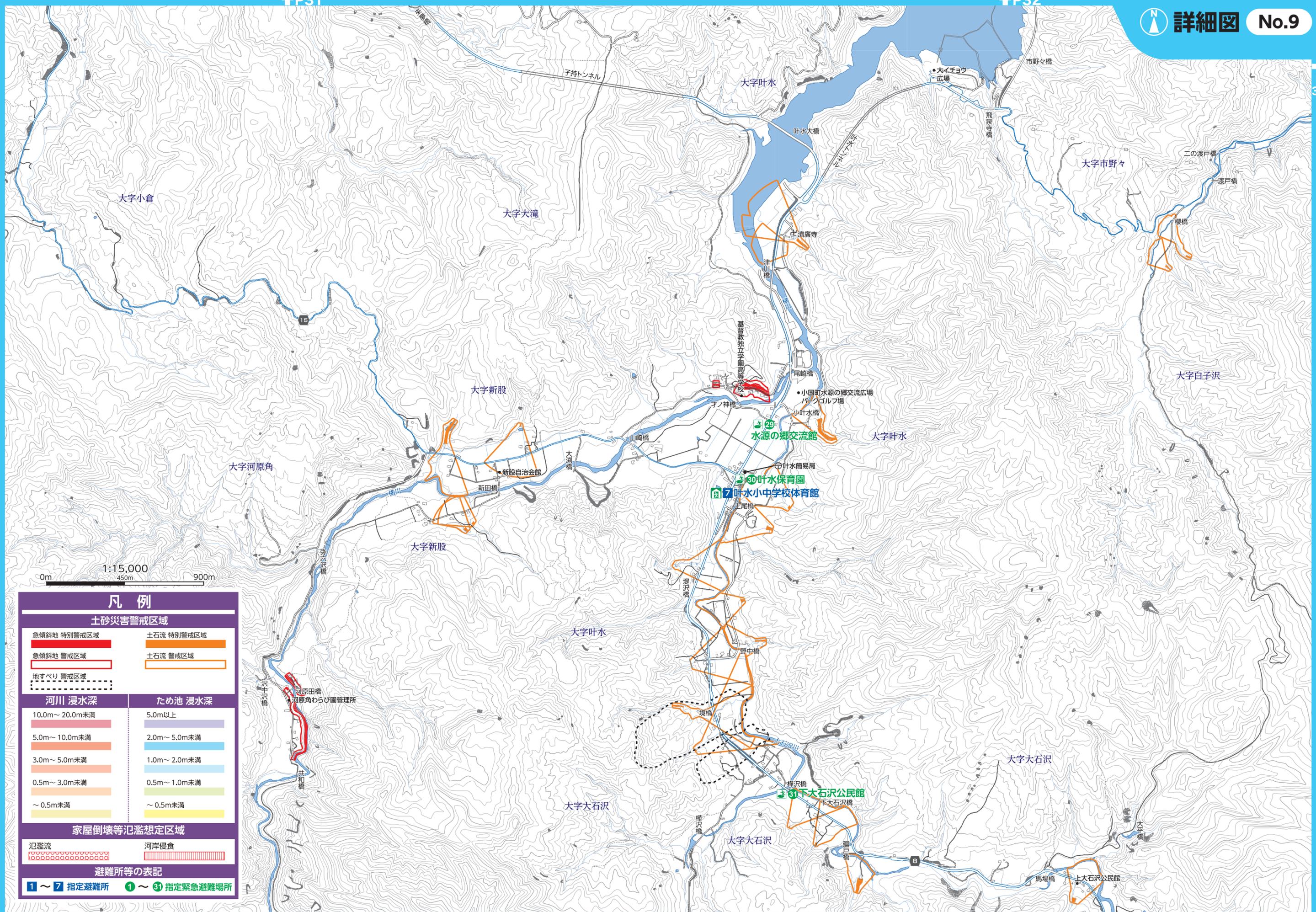
横川ダムの事前放流

事前放流とは、大雨が降り洪水の発生を予測した場合、事前にダム水位(利水容量)を下げ、洪水調節機能の強化を行うものです。

- ②貯留できる容量を増やす
- ①事前放流により容量確保
 - 利水(工業用水・発電)を貯める場所
 - 砂を貯める場所

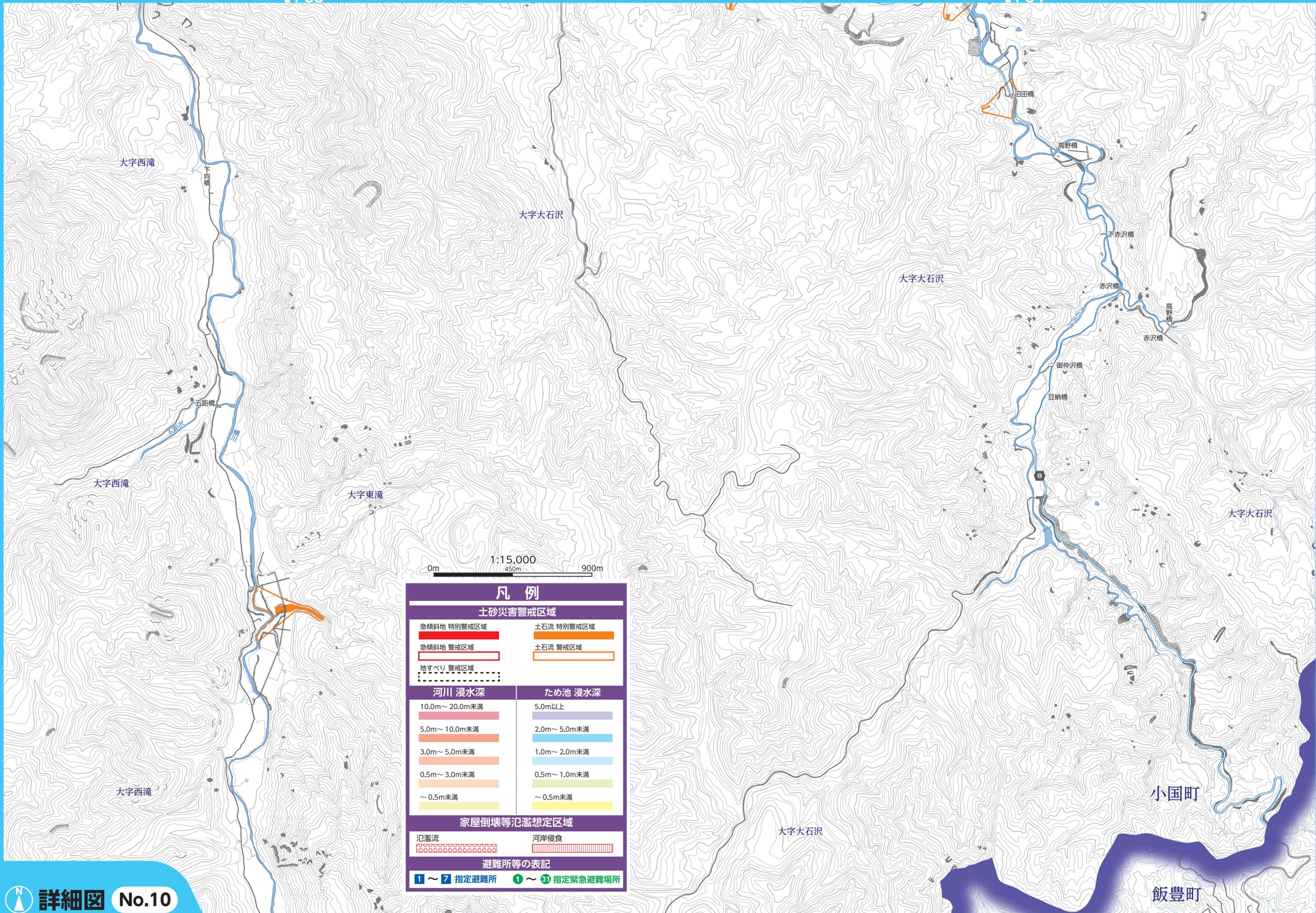
●実施方法
気象庁の予測降雨システムを基に、ダム上流の予測降雨量が基準値以上になった場合に実施します。
※基準値：270mm/48時間

●事前放流を安全に行うために
○操作のルールを守り、下流の急激な水位上昇を起こすような放流は行いません
○関係者(山形県、町、警察署、消防署等)と連携して実施します



凡例

土砂災害警戒区域	
急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	
河川 浸水深	ため池 浸水深
10.0m ~ 20.0m未満	5.0m以上
5.0m ~ 10.0m未満	2.0m ~ 5.0m未満
3.0m ~ 5.0m未満	1.0m ~ 2.0m未満
0.5m ~ 3.0m未満	0.5m ~ 1.0m未満
~ 0.5m未満	~ 0.5m未満
家屋倒壊等氾濫想定区域	
氾濫流	河岸侵食
避難所等の表記	
1 ~ 7 指定避難所	1 ~ 31 指定緊急避難場所



凡例

土砂災害警戒区域

急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	

河川 浸水深	ため池 浸水深
10.0m～20.0m未満	5.0m以上
5.0m～10.0m未満	2.0m～5.0m未満
3.0m～5.0m未満	1.0m～2.0m未満
0.5m～3.0m未満	0.5m～1.0m未満
～0.5m未満	～0.5m未満

家屋倒壊等氾濫想定区域

氾濫流	河岸侵食
-----	------

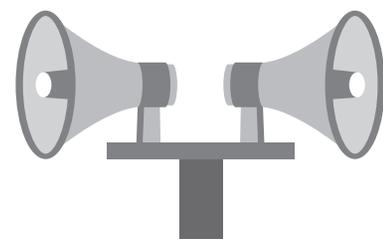
避難所等の表記

①～⑦ 指定避難所 ①～③ 指定緊急避難場所

防災情報の入手方法

小国町防災行政通信システム

小国町は、広大な町土に多くの集落が散在しており、災害が発生した場合、孤立集落が発生する可能性や、冬期間の豪雪といった地形・自然条件を考慮し、高齢者などへ簡単に、かつ確実に情報を伝達するため、平成29年度から小国町防災行政通信システムの運用を開始しました。



このシステムは、全世帯、全事業所に配布した防災ラジオと町内13カ所に設置した屋外スピーカーから放送する2つのシステムの複合型になっています。

放送内容が聞き取れなかった場合には防災ラジオで聞き直すことができますので、ぜひご活用ください。

【主な広報内容】

- 定期放送：時報、訓練放送、火災予防
- 緊急放送：災害関係、消防関係、気象情報、公害情報、有害鳥獣情報、国民保護情報

エリアメール・緊急速報メール

NTTドコモ、au、ソフトバンク等の携帯電話をお持ちの方へ、町が発信する限定的な情報を強制的にメール通知します。

広報車・消防団の巡回広報

町の広報車、消防団からの広報巡回により、情報を提供します。車両スピーカーも大雨の場合は聞き取りづらい時があります。窓を開けるなどの行動で確認しましょう。

インターネットやSNSを利用したリアルタイム情報

内閣府「防災情報システム」

<https://bousai-system.go.jp/index.jsp>



気象庁

<https://www.jma.go.jp/jma/>



山形県河川・砂防情報

<http://www.kasen.pref.yamagata.jp/>



山形地方気象台

<https://www.jma-net.go.jp/yamagata/>



山形県「こちら防災やまがた！」

<https://www.pref.yamagata.jp/bosai/>



小国町ホームページ

<http://www.town.oguni.yamagata.jp>



山形県土砂災害警戒システム

<https://sabo.pref.yamagata.jp/>



小国町Facebook

<https://www.facebook.com/town.oguni.yamagata>



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です